

目的 人間の体型は千差万別であり、計測によって得られる値が同じであっても、個々のシルエットの凹凸曲線はさまざまである。それらの体型に衣服を適合させるために、ダーツは大切な役割を担っており、個体差及びデザインシルエットによってダーツ量の分割分散に差が生じるのは当然である。今回は、人体において複雑な曲線をもつ腹囲上部より、単純化した被覆曲線で成り立つ下部のスカートを取りあげ、視覚的方法によるダーツの分割分散を凸部よりの垂線によって出来る外面空間の把握から求めてみようとした。

方法 モデルを選定し、採寸、シルエット撮影、縦スライディングゲージにより、縦断的体型観察法を行ない、前後中心・脇・前後斜め脇45°の半身5方位各方位の各部下半身最大突出点から垂直線を上昇させ、W・L水平線との外面空間形状及びW・L上の離開差寸法を出し、半身各方位の離開差を平列加算したものを、H寸法に運動量を加えた寸法とW寸法の差分量に比例配分し、各ダーツへの差分量の分割と外面空間値との相関性を、着装実験によって体型別に検討した。なお、計測基線を垂直上下線に求めたので、形態は、スリムなタイト・スカートとし、ダーツ数は、前後とも1本づつの場合とした。

結果 幾通りかの方法を定めて段階的に実験を繰り返し、より良い分割方法を追求した結果、比例配分された差分量のダーツ分割を、後ダーツは後脇の $\frac{1}{2}$ を後中心に加え、前いせ分量を前中心の $\frac{1}{2}$  (0.7cmどまり)とし残りは前いせ、または後ダーツに加える。)前ダーツは前脇分量、脇カット量は、脇と後脇 $\frac{1}{2}$ 加えたものとして着装した場合の適合性は、W・Lにおける後下り角度の個体変化以外は、ほぼ初期の目的を達することができた。